

令和7年度とうきょう すくわくプログラム活動報告書

三田保育園

1. 活動のテーマ

自然と子どもをつなぐ保育

【テーマの設定理由】

自然豊かな当園の環境をいかして、原体験を通しての関わり方を保育士や栄養士が学び子どもたちと安全に豊かな自然体験として火の活動を行うことを、「とうきょうすくわくプログラム」のテーマにした。特に近年子どもたちや大人も火を身近に見る機会が減っていると感じる。経験豊かな年配の職員、自然活動有資格者から火の扱い方を学びながら釜戸体験を行い、煙の匂いや火のあたたかさ、五感で感じるふるさと感が心に残る体験をさせたい。

2. 活動スケジュール

- ・燃えるもの、燃えないものを知る。
- ・リーブノドトレース資格取得職員から自然活動への関りのルールについて職員、子どもが学ぶ。
- ・園庭に簡易的な釜戸を用意し、若い保育士が経験豊かな職員から火おこしを教わりながら体験する様子を子どもたちがみた時の会話を記録する。
- ・園内研修で体験の振り返りを行う。安全面から火の活動には釜戸が必要という意見がでた。
- ・釜戸でもち米を蒸かし餅つきをし、保護者、職員、子どもと火の体験を味わう。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・子どもが自然物を集めて遊べるよう袋、お散歩バック、網、定規、自然物図鑑、モンテッソーリ教具、計等を用意しておく。
- ・園周辺や多摩川沿いの遊歩道に季節ごとに異年齢で散歩に出かける。
- ・リーブノドトレース資格更新を職員が研修を受け更新し職員、子どもに内容共有する。
- ・まき、炭、釜戸、餅つき用具、焼いてみるもの(マシュマロ、りんごなど)

4. 探究活動の実践

- ① 乳児は固定の場に袋を用意しておき、園庭で拾った葉や木の実などを袋に集めて遊ぶ。
- ② ビニールバックを持って散歩に出かけ好きな自然物を集めて園に持ち帰り見せ合う。幼児は散歩中にリーブノドトレース資格者から自然物へのかかわり方のルールを聞く。
- ③ 1回目火の活動は、火おこし初体験の職員は経験ある職員から火おこしを教えてもらいやってみる。
- ④ 釜戸にて、子どもたちはリンゴやマシュマロを焼いてみる。乳児はそばで危なくないよう見学する。
- ⑤ 保育参加の日で3名の保護者も参加し、原体験できる環境は良いと感想をいただく。
- ⑥ 職員ミーティングにて体験中に子どもたちから「においが臭い」「そばに行くと顔が暑いね」「マシュマロが黒くなった」など出てきた言葉を収集し体験して感じた内容を共有した。
- ⑦ 2回目火の活動は、餅つきをするために、釜戸にてもち米を蒸かす。寒い日で火をおこすと子どもたちは近くに集まってきた。
- ⑧ 蔓や木の実、花などでリースを作り飾る。等身大の木に葉をつけるなど制作活動。
- ⑦ 地域の文化祭に日頃作ってためた自然物の作品を出展する。
- ⑧ 田んぼでとれたお米の藁と南天を使い、しめ縄を作る。

- ⑨長さ、重さに興味が芽生えた。定規を用意する。
- ⑩園内研修にてパワーポイントを使用して事例発表をする。振り返りと内容共有をする
- ⑪懇談会にて活動と子どもの成長についてビデオを使い保護者に説明する。



5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

1月末、テーマ「保育と自然をつなぐ」園内研修事例発表をパワーポイントにて幼児担任が行った。6月～1月までの子供の活動を映像を見ながら職員間で振り返ると、保育者が意図を明確にして保育活動を行うことが、子どもたちの興味や関心を広げることだと気づくことができた。日頃のモンテッソーリのおしごとが土台となり、わが園の自然の豊かさを保育者が生かして楽しく伝えることが、子どもたちの豊かな感性や知的好奇心を伸ばすことにも繋がった。職員研修で得た「子ども一人ひとりのレスンプラン」を指針にしたことで、個々の成長の機会をバランスよく提供できた。自分の心と体を思い通りに使い、豊かな語彙力、創造力で表現できる人を育てるお手伝いができる保育の仕事に携える喜びを保育者は感じる事ができた。